



返される言葉“ラド”は、古スラブ語であたたかな“愛”を意味します。

2) KRČKI TANAC クルチュキ・タナツ (クルク島の踊り)イタリアにほど近い、アドリア海に逆三角形に突き出たイストラ半島の東側、クヴァルネル湾に浮かぶ、最も大きく人口も多い島であるクルク島でもっとも親しまれている踊りは、軽やかなステップと優雅な動作が特徴のこの“タナツ”です。2本のソペラという笛の伴奏にのせて、広場や家の中などで、二人ないしは三人組、ときには輪になって踊られます。カポディバッコと呼ばれる踊りのリーダーが演奏や踊りを指揮し、他の踊り手はそれに従います。

3) KORČULANSKI STARI BALI コルチュランスキ・スターリ・バリ (コルチュラ島の古い踊り)前述のクルク島より南に位置するコルチュラ島では今も盛んに踊りが踊られています。“Vrtajica (ヴルターイツァ)”をはじめ、“Polka (ポルカ)”や“Manfrina (マンフリーナ)”等、地中海沿岸地域に共通する要素とスラヴの要素、村の踊りと街の踊りの要素を併せ持つ、素朴で優美な、古より踊り継がれてきた踊りを5曲メドレーで踊ります。



4) SVIRAJ PAVO スヴィライ・パーヴォ(バラニャ地方の踊り)クロアチア東北端、ドラヴァ川とドナウ川に挟まれたパンノニア平原の一角のこのバラニャ地方とその周辺に暮らす人々は、“ショクツィ”ともいわれ、とりわけ歌や踊りに情熱と誇りをもって、独自の伝統を今日まで守ってきました。ところで、題名にもなっている歌の中でうたわれている男性パーヴォが、演奏しておくれと頼まれている楽器はガイダというバグパイプ属の楽器です。踊りや衣装は、南ハンガリー、バラニャのハンガリー人と共通する要素もみられます。

5) INTERMEZZO: ŠOKAČKI SASTANAK ショカチュキ・サスタナク(音楽演奏“ショクツィの集い”) 前述のバラニャ地方、その南西に接するスラヴォニア地方は、のどかで豊かな穀倉地帯です。音楽はドウヴォイニツァ(双管リコーダー)、サミツァ(現代のタンブリツァのもととなったともいわれる弦楽器)、ディプリツァ(葦笛)、ガイダと、ヴァイオリン、タンブリツァによって演奏されます。これらの地方の踊り手は演奏家を取り囲むように輪になって踊ります。

6) PRIGORSKI PLESOVI プリゴルスキ・プレソヴィ (プリゴリエ地方の踊り)首都ザグレブ一帯、プリゴリエ地方の結婚式での女性料理人の踊り“Sukačko (スカチュコ)”です。この地域をはじめ、とりわけ中部～北部クロアチアにおいてひろく踊られています。全身でリズムを細かくきざみながら踊る輪舞“Drmeš (ドウルメシュ)”,そして、この地方にも深く根を下ろしドウルメシュとともに踊られてきた“Polka (ポルカ)”が代表的です。この地方に特徴的なのは、ドウルメシュにみられるドロブニツァという、その場に留まって、全身を震わせる動きです。“Sukačko”では次々と料理が出来上がるさまを笑い話や冗談にかえて楽しく唄います。ドウルメシュの冒頭の民謡“Kriči kriči tiček (クリチ・クリチ・ティーチェック)”では、恋するゆえのかなしみが、枯れ枝にとまった小鳥への問いかけにのせて唄われています。



☆ 休憩 ☆ 東には東の、西には西の音楽、里には里の、山には山の楽器、村には村の、町には町の衣装あり、人には人の踊りあり。

7A) LIČKI PLESOVI リチュキ・プレソヴィ (リカ地方の踊り)中部クロアチアとアドリア海に沿うダルマティアの境に位置するリカ地方では、人々は年頃になると踊りを習い始め、やがてその踊りの腕前を認められるようになってはじめて踊りの輪に加わることが許されます。若者たちを孔雀になぞらえた歌と踊り“Paun (パウン)”,この地方で最も名高い輪舞(=コロ)である“Ličko kolo (リチュコ・コロ)”,ダングビツァ(前述のサミツァと同様の古い形の弦楽器)とミシュニツァ(バグパイプ属の楽器)で伴奏される“Tanac (タナツ)”をメドレーで踊ります。コロを踊る際には、もっとも優秀な踊り手がコロヴォジャ(コロの率い手)となり、踊りを指揮します。

7B) PRIMOŠTENSKO KOLO プリモシュテンスコ・コロ

(プリモシュテン地方のコロ)ダルマティアの中部、山岳地帯であるディナルスコ・ゴリエの麓のこの地方の女性の衣装と歌には地中海沿岸地域の要素が、一方で、男性の衣装と歌には内陸部の要素がよりはっきりと表れています。そして踊りにおいては、その両方の要素が混ざりあっています。伴奏を担うのは左右でばちの太さの違う太鼓と、ミェシュニツァ(リカ地方のミシュニツァと同様)です。



8) ZAGORSKI DRMEŠARI

ザゴルスキ・ドウルメシャリ (ザゴリエ地方の踊り)ザグレブの西北～スロヴェニアとの国境の間に広がる緑豊かな丘陵地帯、ザゴリエ地方の人々はとても陽気で歌や踊り、とりわけドウルメシュが大好き。ドウルメシュが踊られる際には、特別な訓練をつんだドウルメシャリあるいはタンツシと呼ばれる踊り自慢の男性たちが、妙技を披露します。このメドレーでは、“歩いて踊るコロ”を意味する“Šetano kolo (シェタノ・コロ)”、クロア



チアでよく知られているわらべ歌とともに踊られる“Repe (レペ)”、“Enzerica (エンゼリツァ)”、“Judin polka (ユーディン・ポルカ)”、そして締めくくりとしてドウルメシュが踊られます。踊りの初め、そして合間にうたわれる歌はどちらも、太陽と森の木々への讃歌といえる民謡です。

9) LINDO リンジョ (ドゥブロヴニクとその周辺の地域の踊り)ダルマティア南部を代表する踊りといえば、リンジョあるいは“飛び跳ねるコロ”を意味する“Kolo poskočica (コロ・ポスコチツァ)”と呼ばれる踊りです。この踊りは隣のヘルツェゴヴィナ地方など周辺各地で踊られています。リエリツァ(バルカン半島一帯に残る古い形の擦弦楽器の一種)弾きは右足でリズムを刻み、コロヴォジャは誰が誰と踊るかや踊りの動きを決めたり、ときにユーモアを交えながら、互いに踊りの腕前を競い合う若者たちを励ましたりします。



10) INTERMEZZO (Tri pjesme) : NA VRČAKU TULIPANI / GRAD SE BELI / IGRAJTE NAM MUŽIKAŠI ナ・ウルチャク・トゥリパニ / グラド・セ・ペーリ / イグライテ・ナム・ムジカーシ

【1曲目】“庭にチューリップ”クロアチア最北端、歌の宝庫メジムリエ地方の歌です。ハンガリー人が大多数を占めていたこの地方の人々にとって、独特の方言でうたわれる歌は自らのアイデンティティを守る大切なものでした。叶わぬ恋に募る胸の想いが、陽の光を待ちわびるチューリップと幸せな結婚の象徴とされるローズマリーに託して唄われます。

【2曲目】“街が白く輝く”メジムリエ地方より、“バラティン湖(ハンガリーのバラトン湖)の向こうに、朝日に輝く白い雲に包まれた金色の木が育つ街があり、そこには時折地上へ降りて陽気に歌を唄う太陽の娘がいましたが、彼女は兄弟と恋人への愛ゆえに、冬の暗い大地深くに消えることになってしまいました。”

【3曲目】“演奏家たちよ、われらに音楽を”ザゴリエ地方の歌です。賑やかで愉快的な踊りの様子が伝わってきます。“演奏家たちよ、心躍る音楽を奏でておくれ、われらの足が踊り駆け出すように…”

11) NA VELIKO PRELO ナ・ヴェリコ・プレーロ(ブニェフツィの踊り)クロアチアからみてドナウ川の向こう側、現在のセルビアのヴォイヴォディナの西北部からハンガリーにかけての、バチュカ地方に暮らす少数民族ブニェフツィは、リカ地方やヘルツェゴヴィナ地方などから17世紀ごろまでにこの地に移り住んできた人々で、ハンガリーの影響も残した独特の文化をもっています。プレーロは主に冬の夜に行われました。女性たちが手作りのケーキを持ち集まり、糸つむぎ、刺繍、衣装縫いなどの手仕事をする集いですが、若者たちにとっては未来のパートナーと出会う絶好の機会でした。踊りもゲームも在る未婚男女の楽しい社交の場でもありました。“若者(とくに未婚の男性を指す)のコロ”



を意味する“Momačko kolo (モマチュコ・コロ)”は、花嫁候補を見初めるのにぴったりな踊りとして、プレーロの他、結婚式などでも踊られ、永く親しまれています。男性のブーツにつけている拍車と女性の胸元の金貨が、タンブリツァやガイダが奏でるメロディを、踊りにあわせて歌声とともに賑やかに飾りたてます。

フォークロールツアー (主催スロブフォークツウリスト)

スロバキア 2014年6月25日(水)~7月8日(火)
クロアチア・ボスニア 2014年7月10日(木)~7月23日(水)
ロマフェスト・ジブシーツアー-2014年7月30日(水)~9月2日(火)
マケドニア・セルビア 2014年11月19日(水)~12月2日(火)

第3回ロマフェストジブシーダンス・フェスティバル2014

2014年3月8日(土)17:00 NYC ホール

フォークロールレポート公演パートナー故バルガ・エルビン氏を偲ぶ会

3月10日(月)18:30 映像と踊りで偲ぶ
3月11日(土)18:30 エルビンの教えた踊りで偲ぶ NYC 第4体育室

<http://www.folklor.com> email polka11@folklor.com

フォークロールレポート 192-0364 東京都八王子市南大沢 5-11-1-103 042-679-3837 050-3552-5511 FAX.042-679-3517